

Easy low chair

—厚板を生かした椅子—

ホワイトアッシュ・樺
w700×d630×h665mm

中田 裕明
Nakata Hiroaki
研究生

椅子の座^{あぐ}割り、角度のついた仕口の加工、有機的な形同士の接合などを学ぶためにこの椅子を制作した。くつろぎの時間を過ごすための、あぐらのかける低座椅子である。

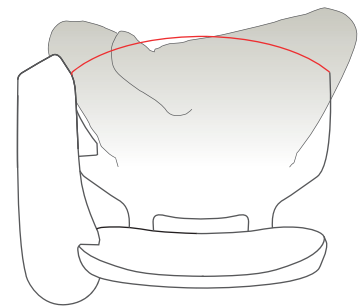
厚板であることを生かしたシンプルで強い構造を考え、削り出した座面から伸びた触手のようなものが後脚を支える構造になった。剃^はぎ合わせる時にその部分だけ長くすることで、材の無駄は抑えている。

設計の際に注意したことは、構造の中心になる座面と背もたれの材の伸縮を妨げないことと、組んだ後で削って行く部分に影響が出ないような仕口にすることである。

樹種は、有機的な形の座面、背もたれ、肘掛けを強調するため、それらをホワイトアッシュで作り、脚と肘掛けの支えは色の濃い樺で存在感を抑えた。この椅子の制作を通して、今回の目標としていた技術の修得、今まで学んできた技術が応用できるようになってきたと思う。



使用シーンスケッチ。肘掛けが広く、更に背もたれの後ろまで伸びているため、姿勢の自由度が高い。



あぐらをかきやすく、普通に座る時にも膝の裏につかえない座面の形状。

